

自らの生から公共の知を共創する 次世代市民の育成に向けた教育の開発

Development of Educational Curriculum and Programs for the Citizen of Next-generations who can co-create public knowledge based on their own life experiences

研究代表者 岡部美香(人間科学研究科 教授)

研究協力者

[学内] 川端映美(人文学研究科博士前期課程) 阪戸斗羽(人間科学研究科博士前期課程) 高木万由葉(人間科学研究科博士前期課程)
高木琳太郎(人間科学研究科博士前期課程) 中村晃輔(人間科学部) 古守真凛(人間科学研究科博士前期課程) 伊藤武志(社会ソリューションイニシアティブ 教授)
今井貴代子(人間科学研究科 特任講師)

[学外] 古波蔵香(福岡教育大学 講師) 増田叶夢(福井県高等学校 教諭) 小川竜牙(茨城県小学校 教諭)

共同研究機関・連携機関

大阪府教育庁 大阪府立天王寺高等学校 大阪府立高津高等学校 大阪府守口市立守口さつき学園夜間学級

1. プロジェクト概要

「当事者参加型」の教育と、そのような教育・福祉を通して「市民参加型」の社会を構想・構築する——これが、私たちのプロジェクトのめざすところ。そのためには、まず、従来の社会でずっと使用されてきた、とはいえ、実際にはもうすでに現実に即さず機能不全を起しているカテゴリー分けやシステムの区分を問い直す必要があります。この問い直しの過程において何より重要なのは、教科書や行政文書、マスコミなどが提示するオーソリティ（権力をもつ機関や人びと）からの「借り物」の言葉ではなく、市民一人ひとりが自らの生を象るために共創する〈ことば〉を重視すること、そして、その〈ことば〉を、私たちの〈公共の知〉へと協働しながら醸成していくことのできる次世代の市民を育成することです。これによって、当事者をはじめとする市民一人ひとりが参加しながら、さまざまな社会改革を進めることが可能になります。



本プロジェクトでは、この3年間、問い直しのためのさまざまな理論的・実践的な試みを展開してきました。最終年度の2024年度は、市民である子どもたち一人ひとりが共創する〈ことば〉を〈公共の知〉とすることができるような教育カリキュ

ラム・プログラムを開発しました。この教育カリキュラム・プログラムを通じて、今後も継続的に、子どもを含む市民一人ひとりが協働して〈ことば〉を共創したり発信したりするという活動にチーム体制で取り組んでいく予定です。

2. 2024年の取り組み・成果とプロジェクトの今後

① 夜間中学における取り組み

夜間中学の歴史と今日における存在意義をさまざまな形で国内外に発信するとともに（大阪大学人間科学研究科修士論文「夜間中学生の学ぶよろびに関する一考察」に基づいた研究会、日本教育学会第82回大会課題研究Ⅰ「義務教育とは何か」など）、大阪府教育委員会小中学校課と連携し、大阪大学に所属する留学生が夜間中学（大阪府守口市立守口さつき学園夜間学級）の「総合的な学習の時間」の講師となり、国内のグローバル化に対応した国際理解・交流の場を開くというプログラムを構築しました。これまで、インドネシア、インド、アルゼンチン、ハンガリー、ジョージア、ペルーからの留学生が講師を務めました。来年度以降も、このプログラムを継続する予定です。

② SDGs教育をこえて「いのち」を思考する教育へ

SDGs、そして大阪大学が関西経済3団体と発起した「いのち会議」がめざす、すべての人びとの生（生命・生活・人生）が生き生きと生きる社会。そのような未来社会を構想し、これから構築するためには、未来の社会を実際に担う「当事者」である子どもたちがその構想・構築の過程に参加していることが根本的にかつ極めて重要です。加えて、その過程においては、子ど

「当事者参加型」の教育・福祉を通して 「市民参加型」の社会を構想・構築する



もたちが自らの日常の実感をただそのままナイーブに表出するだけでなく、自らのその実感にしっかり根ざしながら、新たな未来社会の構築に向けて他者と協働できるような〈ことば〉と思考を学び鍛え上げていくことが不可欠です。それを実現するべく、次の教育プログラムを開発しました。

(a) 大学生による「いのちの声」発信プログラム

大阪大学の大学生・大学院生11人が、まず「探究」とは何かについてレクチャーを受け、次に自ら実際に「探究」をしながら、自分たちの〈ことば〉で「いのちの声」を作成・発信しました。その際、SDGsの歴史について協働で調べ学習を行い、そこで得た理論的根拠に基づきつつ、SDGsの社会的意義と今日的課題に関する自らの思考を、グループディスカッションを通してさまざまな視点から批判的に省察しながら、既成のオーソリティの思考の枠組みや言葉に拠らずに、自分たちの〈ことば〉で発信しました。自らの思考と〈ことば〉を協働で磨き上げるというこの活動は今後も、大阪大学人間科学部で開講されている「教育人間学演習Ⅰ」で継続される予定です。

参照HP：大学生が、SDGsを主題に「探究」とは何かを学びました。

(b) 高校生対象、大学生・大学院生による「SDGsのその先をアカデミックに探究しよう！」

上記(a)に参加した大学生と大学院生が、大阪府教育委員会と連携し、高校生対象のプログラムを協働で開発し実践しました。このプログラムの目的は、



SDGsの歴史と目標・内容を問い直すことを通じて、「テンプレート」や「正解」をあらかじめ想定せずに、かつ他者と議論をしながら、探究の過程で最も重要な「問いを立てる」というプロセスを体験することにあります。2024年8月3～5日に開催されたプログラムには、大阪府立天王寺高校と高津高校の生徒さん19人が参加し、SDGsの問い直しを踏まえて、SDGsを乗り越える「いのちの声」を作成しました。

参照HP：高校生参加・大学(院)生企画「SDGsのその先をアカデミックに探究しよう！」を開催しました。

このプログラムも、大阪府立天王寺高校と連携しながら今後も毎年継続し、いのちが生き生きと生きる社会の構築に積極的に参与するような、自分の〈ことば〉で語りつつ他者と協働できる次世代の子どもたちの育成に貢献したいと考えています。そのためには、大人はもちろん、高校生や大学生・大学院生にも、日常生活や学校教育等を通して身につけてきた「技術的合理性」と「有用性」と「高効率性」という価値基準をいちどアンラーニングする必要のあることが、この基幹プロジェクトを通して明らかになりました。今後は、アンラーニングをいかに実現するかを主軸の一つとして、理論・実践研究を進めてまいります。

参照HP：大阪府立天王寺高校の課題研究「社会ゼミ」に参加してきました！